地域交流活動報告書

平成25年度

地域社会の一員として

杏林大学の地域交流活動を紹介します。

杏林大学

杏林大学は、多摩地域を中心に積極的に地域交流活動を行っています。

地域社会において、大学に求められる役割がより大きくなっているなか、杏林大学では、大学が有する人的資源・知的資源を有効に活用し、キャンパス周辺地域と活発な交流活動を続けています。より魅力ある社会づくりに貢献するために、これまで東京都三鷹市・八王子市・羽村市との連携を中心に、さまざまな活動を行ってきました。
ここでは平成25年度に実施された主な活動をご紹介します。

- 地（知）の拠点整備事業
- 健康分野での地域交流活動
- 教育分野での地域交流活動
- 地域活性化分野での地域交流活動

■ 第32回羽村市駅伝大会における通訳（英語・タガログ語）案内係

■ 羽村市における若者フォーラムおよび投票率向上に向けたプロジェクトの実施

■ 異文化の集い ～シャーロックホームズの冒険～

■ エイズ・ピア・エデュケーションを活性化させる為に

■ 八王子老人クラブ連合会会合におけるアロマテラピーによる交流

■ 西東京地域の観光地におけるグローバル対応

■ 肢体不自由児のスポーツ参加の支援

■ 平岡町わくわく健幸教室

■ 八王子夢街道駅伝競走大会での応急救護活動等への参加、および八王子市立加住中学校でのBLS指導実施

■ 保護者が幼児に性教育を行うための支援

■ Mitaka Kichijoji Project

■ 多摩地域以外での地域交流活動

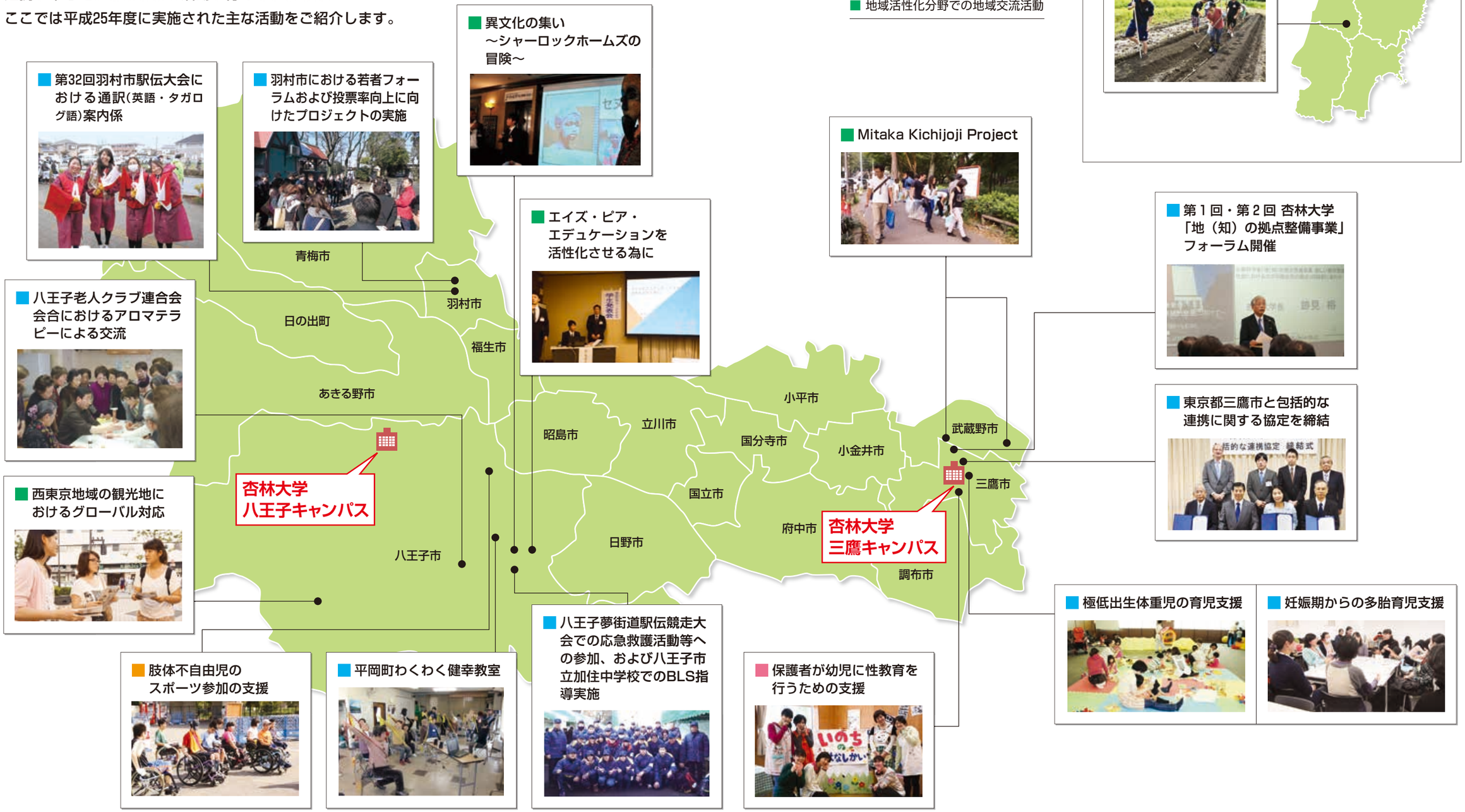
■ 秋田県湯沢市 秋の宮温泉郷との連携協定に基づく活動

■ 第１回・第２回 杏林大学「地（知）の拠点整備事業」フォーラム開催

■ 東京都三鷹市と包括的な連携に関する協定を締結

■ 極低出生体重児の育児支援

■ 妊娠期からの多胎育児支援



ごあいさつ

地域との連携を深める

学長　跡見　裕

杏林大学が進めている“地域との交流”は多岐に渡っております。これらの遂行に関しては、教職員の多大な労力がありますが、それにもまして地域の皆様のご協力が必要であります。まず関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、本学は昨年文部科学省“地（知）の拠点整備事業”に採択されました。全国から300大学以上が応募し、50校足らずが認められたものです。難関を突破できたのは、地域交流推進室を中心として、様々な部署での取り組みが評価されたのだと思います。大学には多様な資源があります。専門性の高い教職員がおり、施設としても図書館や語学研修が可能な語学サロンなども整っています。これらの資源を活用し、より地域との連携を深めていくことが本学に課された使命の一つと考えております。

この地域交流活動報告書は、本学が進めております活動をまとめたものです。この小冊子をお読みいただき、貴重なご意見をいただければ幸いです。

「地（知）の拠点整備事業」に採択され、さらに地域と強く結びついた学びの場の構築を目指します

地域交流推進室　室長　古本　泰之

杏林大学では1970年の創立以来、医学部・保健学部による「健康」を軸とした活動が東京都三鷹市などを中心に積み重ねられてきました。また、総合政策学部・外国語学部の文系学部においても、主に八王子キャンパス周辺の東京都八王子市・羽村市を中心として多様な活動を行ってきました。それらの実績を通じて、平成25年度には文部科学省“地（知）の拠点整備事業”に「新しい都市型高齢社会における地域と大学の総合知の拠点」というテーマで申請し、採択を受けました。この事業や2016年度に予定されている「井の頭キャンパス」開設を契機として、さらに地域と強く結びついた学びの場の構築を目指しております。この報告書はそのような取り組みの一端をお知らせするものとなっています。

本学では、この学びの場を在学生だけに開かれている空間としてではなく、地域の皆さま方と本学の教職員・在学生が交流しながら「学び合う」空間ととらえており、地域と本学との協働でその場を作り上げていきたいと考えております。ぜひ気軽にお声がけいただければ幸いです。

目　次

プロローグ …… P2
ごあいさつ …… P4

地（知）の拠点整備事業に関する社会貢献活動

平成25年度 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択
「新しい都市型高齢社会における地域と大学の総合知の拠点」 …… P6
第１回 杏林大学「地（知）の拠点整備事業」フォーラム開催
「地域社会における大学の未来像――地域の持続的発展に向けて」 … P7
第２回 杏林大学「地（知）の拠点整備事業」フォーラム開催
「街じゅうみんなで～地域で子育てを支え、虐待を防止するために～」 … P8
妊娠期からの多胎育児支援（多摩多胎ネット） …… P9
極低出生体重児の育児支援（ぴあんず）…… P10
羽村市における若者フォーラム
および投票率向上に向けたプロジェクトの実施…… P11
八王子老人クラブ連合会会合におけるアロマテラピーによる交流 … P12
平岡町わくわく健幸教室 …… P13
八王子夢街道駅伝競走大会での応急救護活動等への参加
および八王子市立加住中学校でのBLS指導実施 …… P14
第32回羽村市駅伝大会における通訳（英語・タガログ語）案内係 … P15
杏林CCRC研究所セミナー／公開講演会・公開講座 …… P16
東京都三鷹市と包括的な連携に関する協定を締結 …… P17

健康分野での地域交流活動

保護者が幼児に性教育を行うための支援 …… P18
その他の健康分野での地域交流活動 …… P19

教育分野での地域交流活動

肢体不自由児のスポーツ参加の支援 …… P20
その他の教育分野での地域交流活動 …… P21

地域活性化分野での地域交流活動

西東京地域の観光地におけるグローバル対応 …… P22
エイズ・ピア・エデュケーションを活性化させる為に …… P23
異文化の集い　～シャーロックホームズの冒険～ …… P24
Mitaka Kichijoji Project …… P25
秋田県湯沢市　秋の宮温泉郷との連携協定に基づく活動 …… P26
その他の地域活性化分野での地域交流活動 …… P27

平成25年度 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択
「新しい都市型高齢社会における地域と大学の総合知の拠点」

文部科学省が平成25年度から取り組む「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に、本学が申請した「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」が採択されました。

この事業は自治体と連携して全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を国が５年間にわたり支援するもので、全国342の大学等から319件の応募があり、52件が採択されました。

「地（知）の拠点整備事業」の目的は、「大学機能（教育・研究・社会貢献）の地域志向化の促進」とされています。つまり、大学が立地する自治体との連携関係を前提に、学長のリーダーシップの下で、教育カリキュラム・組織の改革などを通じて全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を展開していくことを求めたものです。

今回、本学が提案し採択された本事業の構想は、「都市型高齢社会の健康と安心」を重点的に取り組むべき地域課題と設定し、学生と地域関係者が共に学ぶ「生きがい創出」、退職団塊世代の「健康寿命延伸」、大規模自然災害に備える「災害に備えるまちづくり」の３テーマに基づいています。

現在、本学キャンパスは東京都三鷹市と八王子市に立地し、医学部と保健学部（看護学科の一部）が三鷹市、保健学部・総合政策学部・外国語学部の３学部が八王子市にあり、平成28年には三鷹市に井の頭キャンパスを設置し、教育・研究機能を集約・発展を図る予定となっています。本事業ではこの２市の他に、以前より協力関係を進め「包括連携協定」を締結している東京都羽村市を含めた三鷹市・八王子市・羽村市の３市と連携し、本学４学部の教育・研究資源を動員し、地域のさまざまな課題に対応する機関として、大学と地域との包括的な連携体制「杏林CCRC : Center for Comprehensive Regional Collaboration」を構築して参ります。

この拠点として「杏林CCRC研究所」を三鷹市三鷹産業プラザ内に設置しました。研究所を軸として、自治体等と協議する場である「杏林CCRCラウンドテーブル」、地元住民との交流の場として各自治体の市街地に「杏林コモンズ」を設け、３市における多様な課題を本学の教育・研究資源とマッチングさせる機能を強化していきます。

杏林CCRCではこれらを「教育」「研究」「社会貢献」の三側面より具体的なアプローチを行っていきます。教育面では地域志向科目を充実させ、これらを通して「生きがいづくりコーディネーター」の資格を認定してゆきます。社会貢献、研究面では地域活動の支援・促進や、持続発展を可能とする少子高齢化社会の未来像を構築する「CCRC研究」と３テーマに関わる実践的な研究を行う「地域志向研究」を進めていきます。

本報告書では本事業のうち、社会貢献について取り上げていきます。

■杏林CCRC概要図

第１回 杏林大学「地（知）の拠点整備事業」フォーラム開催
「地域社会における大学の未来像
――地域の持続的発展に向けて」

平成25年11月２日（土）、第１回「地（知）の拠点整備事業」フォーラムを三鷹ネットワーク大学において開催しました。文部科学省の補助事業に本学が平成25年度に採択されてから、初めての開催となりました。今回の第１回フォーラムでは、今後、本学と地域との連携した取り組みや推進体制等についてご紹介しました。当日は三鷹市、八王子市、羽村市の市長等関係者や市民、それに本学の教職員や学生等あわせて約150人が参加しました。

開会の挨拶に立った跡見裕学長は、３市にお礼を述べたあと、本学の事業計画について説明致しました。その上で、「アメリカでは１つの敷地の中で健康時から介護時まで継続的にケアを提供する高齢者コミュニティ（CCRC=Continuing Care Retirement Community）が広がりを見せている。それを日本型モデルとして検討し、超高齢社会を迎える中で、大学の教育・研究資源を動員し、行政・地域社会・地域産業体、シンクタンクを巻き込んだ日本型CCRCが発信出来ればと願っている」と構想を語りました。

続いて、三鷹市の清原慶子市長、八王子市の村松満副市長、羽村市の並木心市長からこれまでの本学との連携事業にそれぞれ触れながら今後の事業展開に期待する挨拶をいただいた後、地域交流推進室長で外国語学部の古本泰之准教授が「杏林大学の地域交流活動の現状と今後の展開」のテーマで報告しました。本学の地域交流活動の歴史を述べた後、今回採択された本学の提案の概要を説明した上で、「大学は様々な地域の課題をパートナー団体等と協議し、本学の教育・研究資源を活用して解決策を提示し、その成果をこうしたフォーラムで報告していきたい」と今後の方針を述べました。

続いて、杏林CCRC研究所長で保健学部の蒲生忍教授が「高齢化社会における大学の統合知の役割：杏林CCRC研究所の目指すもの」と題して講演しました。蒲生所長は「アメリカ型のCCRCに対して、私たちは地域の現状に合わせてより広い意味に捉え、研究所をCenter for Comprehensive Regional Collaboration、即ち“杏林大学の知を地域社会と統合的に協働させる拠点”として、３市が直面することになる高齢化社会における『生きがい創出』『健康寿命延伸』そして『災害に備えるまちづくり』を取り上げていきたい」と研究所の方針を述べました。

この日はフォーラムを挟んで本学と自治体等の関係者が地域課題を話し合う杏林CCRCラウンドテーブルが開催され、フォーラム開始前の１部では跡見学長等と３市の市長等による懇談が、フォーラム終了後にはそれぞれの実務担当者が一堂に会して今後の協働を約し、次回のラウンドテーブルを来年、八王子市で開催することを申し合わせました。

当日は予想を大きく上回る参加者に、会場を提供した三鷹ネットワーク大学の事務局員は「これだけの参加者は開設以来初めてです」と驚いて下さいました。

フォーラムには教職員や学生等約150人が参加

跡見学長による開会の挨拶

第２回 杏林大学「地（知）の拠点整備事業」フォーラム開催
「街じゅうみんなで ～地域で子育てを支え、虐待を防止するために～」

講演とパネルディスカッションで地域の皆さんと共に子育てを考える

平成25年11月30日（土）第２回「地（知）の拠点整備事業」フォーラムを三鷹ネットワーク大学において開催しました。今回は、全国の児童虐待件数の増加に伴い、虐待未然防止のために今まで以上にきめの細かい、そして地域を挙げた子育て支援を進める必要があることをうけ、三鷹市が子ども家庭支援センターの開設など、早くから積極的な子育て支援、児童虐待防止活動を進めてきた経緯から、今後さらに地域を挙げて、街じゅうで子育てを支援する為にどうしたらよいか、そして大学には何が求められるかを地域の皆さんと共に考える機会としました。

会場には近隣住民、行政・大学関係者を中心に100人以上が集まり、活発な議論が展開されました。開会挨拶は本学のスノードン副学長、閉会挨拶は蒲生所長が行いました。

第一部では外国語学部・金田一秀穂教授により「子どものことば」と題して、地の拠点事業と生涯学習について、子どもの日本語について、また、生涯学習については「学力」とは何か、人間にとってなぜ言葉が必要であるかを講演しました。そして、「子どもの言葉の発達において大事なのは慌てないこと、さらに無理をさせず、曖昧なところをはっきりさせていく過程を待ってあげることが必要である」と結びました。

第二部のパネルディスカッションでは、保健学部熊井利廣准教授から「子育ての環境は高度成長期のあと大きく変化し、児童虐待の件数の増加も、環境の変化がひとつの要因であると思います。三鷹市は子育て支援に関して全国に先駆けて取り組んできました。子育て支援に関して大学がどのような役割を果たせるのかを考えていきたいので、そのために現状の取り組みを紹介して頂きたい」という説明がなされました。

パネリストからは、三鷹市の子育て支援の現状、子ども家庭支援センターの活動、民生児童委員について、子育てコンビニのNPO活動、本病院における児童虐待問題への取り組みが紹介されました。

各パネリストの報告後は、熊井利廣准教授からの質問や、会場一般参加者からの質問をもとに、活発な意見交換が行われ、虐待に至らないようにするための取り組みの中で、幼少のところで虐待を防ぐことが重要であるなどの指摘がなされました。

副学長による開会挨拶

所長による閉会挨拶

第一部では金田一教授が講演

第二部のパネルディスカッションの様子

保健学部　看護学科母子看護・助産学教室、母子看護学教室

社会貢献　生きがい創出

妊娠期からの多胎育児支援（多摩多胎ネット）

指導教員名　佐藤 喜美子・太田 ひろみ・佐々木 裕子・鈴木 朋子・山内 亮子
（協力：杏林大学医学部付属病院　助産師）

学生代表者　二瓶 聡美（看護学科）

活動事業

［概　要］

- 多胎妊娠中の妊婦とその家族を対象に、「妊娠期からの継続支援：多胎育児準備クラス」を開催。医師・助産師からの話、先輩ママ・パパの体験談を聞いたほか、グループワークを行った。
- ふたご育児中の家族を対象に、「多胎育児交流会・ツインズマーケット」を開催。ふたごで生まれ育った方の講演会、親たちの情報交換、フリートークやフリーマーケットを実施した。

［ねらい］

- 多胎妊娠・育児中の母親と家族の不安を解消し、育児を具体的にイメージ化して準備にとりかかれるようにする。
- 学生たちが医師・助産師の話を聞きながら多胎妊娠・出産について学習する機会とし、子ども達と遊びながら幼児の特徴やふたごの関係性などを学ぶ。

［成　果］

- 参加者からは、「成長した双子さんに話が聞けて良かった」「ふたごで生まれた子ども自身はどのように思っているのか参考になった。」など、好意的な感想があった。
- 学生たちは、実際の保育を体験することで、子どもの特徴や保育技術を実践し、様々な不安を抱えているお母さんたちが、その不安を共有することで安心する姿を見て、この会の意義を理解した。

多胎妊娠期の妊婦と先輩ママとの交流

ツインズマーケットでの保育の様子

多胎妊娠期の妊婦の家族と先輩パパとの交流

遊びながらふたごの幼児の特徴も学習

保健学部　母子看護学・助産学教室

社会貢献　生きがい創出

極低出生体重児の育児支援（ぴあんず）

指導教員名　吉野 純

学生代表者　大内 みのり（看護学科）

活動事業

［概　要］

●「ぴあんず」は、付属病院で1800g未満で出生し、NICU*1/GCU*2を退院した子どもとその家族を対象に育児支援を行うボランティア団体である。

●平成25年度の催しは下記の４回。親は各回の催しに参加し、子どもは親から離れて学生ボランティアと遊んで過ごした。

①５月11日　就園、就学についての勉強会。

②７月13日　子どもの年齢別（乳幼児期と学齢期）に分かれてフリートーク。

③10月26日　発達障害の子どもへの支援―就学から就労―について勉強会。

④２月22日　子どものリハビリテーション。理学療法士、言語療法士を招いての勉強会。

＊１　NICU …新生児・未熟児集中治療管理室

＊２　GCU …新生児治療回復室

［ねらい］

●同じような子どもが近くにいないため、親たちが将来の課題を認識し、そのために今できることや日々の子どもへのかかわりについて学ぶ。

●学生が子どもを預り、世話をすることで、親たちが安心して勉強会に参加できる。

［成　果］

●親たちからは、子どもの面倒を見てくれて安心して勉強会に参加できる、一生懸命さが伝わってきて好感が持てた、毎回子どもが楽しみにしていることからよく遊んでくれているのがわかるなど好意的な評価を受けた。

●学生については、継続して参加する学生も多く、子どもたちの成長過程を目の当たりにすることができ、また実際に関わる難しさも感じながら、体験を通して学び考える機会となっていた。

学内の学びと学外活動が融合し、学生たちには貴重な体験に

総合政策学部　木暮ゼミナール

社会貢献　生きがい創出

羽村市における若者フォーラムおよび投票率向上に向けたプロジェクトの実施

指導教員名　木暮 健太郎

学生代表者　加瀬 敦士（企業経営学科）

活動事業

［概　要］

●本プロジェクトに関連し、平成26年２月５日に羽村市を見学し、羽村市の産業、観光資源などの現状を把握し、今後の羽村市・杏林大学連携事業に活かしていくことを目的として、羽村市のバスツアーを実施した。

●大雪の為、２月９日に予定していた都知事選出口調査は中止となったが、市の依頼のもと開票作業の補佐としてプロジェクトに貢献した。

［ねらい］

●羽村市において「若者フォーラム」の実施企画をする。

●「若者フォーラム」とは、羽村市在住の若者（18歳～39歳）、羽村市の職員、および総合政策学部の木暮ゼミナールとの連携によって活動しているプロジェクトで、具体的には、さまざまなイベントや企画を通じて、若年層が「街づくり」に関与する機会を提供し、市政への関心を高めることを目的としている。

［成　果］

●バスツアーについては、羽村市を実際に見学することを通じて、学生たちの問題意識や関心が明らかに高まった。

●学生からは、羽村市内の中でも、栄えていて華やかな所と閑散としている所がある。今後、例えばマミー商店会に何かユニークな企画を提案してみたいとの意見があった。

●企画政策課の職員からは、市の職員だけで計画を練っても内向きなものしか出てこないことが多いので、杏林大学の学生のような若い人達から斬新なアイディアをぜひ頂戴したいとの要望が出された。

●開票作業については、全員が初めての経験であり、具体的な体験を通じて選挙そのものに対する関心や理解が深まった。

年間来場者数が20万人超の「羽村市動物公園」

「マミーショッピングセンター」は古くから地域に根付いてきた商店街

羽村市職員と学生のフリーディスカッション

保健学部　臨床血液学研究室

社会貢献　生きがい創出

八王子老人クラブ連合会会合における アロマテラピーによる交流

指導教員名　西村 伸大

活動事業

［概　要］

- これまでにも好評であったアロマテラピーを用いたボランティア活動の一環として、３月16日に八王子老人クラブ連合会（八老連）38名の方々と定期交流会を行った。
- アロマテラピー用の材料を用い、簡易な作製手順・注意事項等を説明し、グループごとに本学学生ボランティアのメンバーを配置、手でこねるアロマ石鹸の作製を実施した。
- また、ペアになりアロマオイルを用いたハンドマッサージも実施した。
- 学生も八老連の方々とのコミュニケーションを積極的にはかり、和やかな雰囲気で楽しく作業に取り組んだ。

［ねらい］

- アロマグッズ作製において、手vvことによる脳の活性化、香りによるリラックス効果なども期待でき、興味を持って積極的に参加するという生きがいにつなげていただく。
- 学生のコミュニケーション能力の向上に有効である。

［成　果］

- 八老連の方々は、終始、楽しんでおられ、学生にも積極的に話しかけていただく等、有意義な交流会が実施できた。
- 今回も好評で、是非次回もこのような機会を作ってほしいとの依頼をいただいた。平成26年度も実施予定である。

手でこねてアロマ石鹸をつくる八王子老人クラブの皆さん

ペアになりアロマオイルを用いてお互いにハンドマッサージを施行

保健学部　運動障害系理学療法学研究室

社会貢献　健康寿命延伸

平岡町わくわく健幸教室

指導教員名　榎本 雪絵

学生代表者　小山 なみの（理学療法学科）

活動事業

［概　要］

- 八王子市平岡町在住の高齢者（平岡町老友クラブ会員）約20名を対象に、平成25年７月14日から月１～２回、平成26年６月28日までの１年間を予定し、健康教室ならぬ『健幸教室』を開催している。
- 平成25年11月より１教室につき10～15名ほどの理学療法学科の学生が運動指導や体力測定の補助として参加した。
- 活動内容は、健康増進を目的としたミニ講座による健康教育、セラバンドを用いた体操を中心とした運動と定期的な体力測定を実施している。

［ねらい］

- 平岡町在住高齢者に健康増進および健康教育を行い、実施期間終了後も住民主体で健康教室などが開催できるよう支援する。

［成　果］

- 参加者からは、学生さんがやさしく接してくれ、パワーをもらっている、との言葉を頂戴しており、特に第４学年で行われる臨床実習前の理学療法学科学生においては、有意義な機会になっている。
- 多くの学生の参加により、立位での運動の実践が促進され、参加者の運動継続や運動効果の向上が期待できる。

立位での運動を行う参加者の皆さん

学生が行う運動指導

学生がアドバイスを行いセラバンドを用いた体操を行う参加者の皆さん

保健学部　救急救命学科

社会貢献　災害に備えるまちづくり

八王子夢街道駅伝競走大会での応急救護活動等への参加および八王子市立加住中学校でのBLS指導実施

指導教員名　和田 貴子

活動事業

［概　要］

- 平成26年１月26日、公道を走る駅伝大会としては国内最大規模を誇る「第64回全関東八王子夢街道駅伝競走大会」の開催に伴い、八王子市からの依頼に基づき次の活動を実施した。
- 保健学部救急救命学科の教員４名、３年生11名、２年生７名、１年生９名が自転車での伴走による心肺停止者に対するAED（除細動）担当、救護所での応急手当担当として、８か所に分かれ、参加者の安心・安全の確保に協力した。
- ３月７日、加住中学校で教員・生徒に対し、BLS（一次救命処置）指導を実施した。

［ねらい］

- 杏林大学保健学部を代表し、八王子消防署と連携の下、救護所における応急救護及び走路におけるAED救護等を担当し、駅伝競走大会参加者等の安心と安全の確保を図る。
- BLS指導を通じて中学生にも応急手当の重要性を伝える。

［成　果］

- AED担当学生（除細動）が警戒実施中、おぼつかない足取りで走っている走者に気づき、万が一に備え走者の後方を自転車で伴走していたところ、走者が路上に倒れこんだため救護処置を実施するとともに救護所に通報した。八王子消防署員と連携協力し、救急隊に引き継ぐことができた。
- ケガ人１名が発生したものの他に大きな事故等の発生はなく、駅伝競走大会参加者等の安心と安全の確保が図られ駅伝大会の成功の一助となり得た。
- 中学生にも日常生活を送る中で適切な応急手当の必要性を認識してもらうことができた。

八王子夢街道駅伝に参加した救急救命学科の学生

夢駅伝AED担当は自転車にAEDを積載した

加住中学校生へ心肺蘇生法訓練用の人形を使用した処置指導

外国語学部　英語学科

社会貢献　災害に備えるまちづくり

第32回羽村市駅伝大会における通訳（英語・タガログ語）案内係

指導教員名　八木橋 宏勇

学生代表者　千野 美華（英語学科）

活動事業

［概　要］

- 平成26年３月２日に開催された「第32回羽村市駅伝大会」に、通訳案内ボランティアとして外国語学部の学生４名が参加した。
- コース整備やコース監察員として、大会の運営に協力するとともに、選手・観光客として来ていた日本語非母語話者への英語・タガログ語通訳案内要員として、災害・急患発生等の不測の事態に備えた。

［ねらい］

- 英語・タガログ語が必要になった際に通訳案内業務を行い、イベントの円滑かつ安全な運営に協力する。

参加した英語学科３年の学生

［成　果］

- 災害・急患発生等の不測の事態が生じた場合、日本語非母語話者は情報弱者になる可能性が高く、今回の取り組み内容はそれを回避する備えとしての通訳案内係業務であった。

レース開始後は、コース監察員として大会の運営に協力

「テレビはむら」の取材を受ける学生

杏林CCRC研究所セミナー

杏林CCRC研究所では、本学の大学COC事業のテーマである「新しい都市型高齢社会における地域と大学の総合知の拠点」に関する研究を推進し、持続的発展を可能とする少子高齢化社会の未来像構築を目指しています。
その取り組みについて「杏林CCRC研究所セミナー」を開催し、広く公開してゆきます。

No.	テ　ー　マ	講　師　等	場　　所	開催月日
1	「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」の改定について	堤　正好氏（株式会社エスアールエル　学術企画部　学術情報グループ）	杏林CCRC研究所	12月18日
	包括的同意について：遺伝子解析研究等においてのインフォームドコンセントのあり方について	増井　徹氏（独立行政法人　医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部部長、政策・倫理研究室リーダー）		
2	杏林大学と三鷹市の協働 特に研究の可能性について	山口亮三氏（NPO法人　三鷹ネットワーク大学 推進機構　事務局長） 大朝摂子氏（三鷹市企画部企画経営課）	三鷹産業プラザ 702会議室	1月23日
3	新しい都市型高齢社会における 地域と大学の統合知の拠点 ～米国出張報告～	蒲生　忍（杏林大学保健学部教授　杏林CCRC研究所所長） 松井孝太（杏林CCRC研究所特任助教）	杏林CCRC研究所	2月28日

公開講演会・公開講座

地域の皆さまへの公開講演会・講座提供を八王子学園都市大学いちょう塾、三鷹キャンパス講堂、羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」などさまざまな会場で実施しました。大学側からの一方的な提供だけではなく、地域の皆さまとの意見交換から内容を設定する講座も行っており、互いに学びあう機会をこれからも展開していきます。
下記一覧では平成25年度公開講演会・講座の一部を抜粋して紹介します。今後も大学COC事業のコンセプトに基づいた本学ならではの有意義な内容を多数行いますので、気軽にご参加ください。

1	アロマテラピー基礎講座 ～エッセンシャルオイルを用いたリラクセーション～	保健学部	講　師	西村　伸大
2	被災地でのリハビリ支援	保健学部	准教授	河野　　眞
3	聴こえのしくみと耳の病気	医 学 部	講　師	増田　正次
4	ピロリ菌を除菌してきれいな胃を取り戻そう	医 学 部	教　授	高橋　信一
5	認知症と向き合う	医 学 部	教　授	神﨑　恒一
6	運動の魅力と効能 ～自分の体と仲良くして充実した人生を送るために～	保健学部	准教授	石井　博之
7	ちょっと役立つ薬疹の知識	医 学 部	教　授	塩原　哲夫
8	障がいを持つ人の生活とリハビリテーション・作業療法	保健学部	教　授	下田　信明

詳しくはWebをご覧ください。 杏林大学公開講演会・公開講座 検索

東京都三鷹市と包括的な連携に関する協定を締結

教育、研究、社会貢献の分野で相互の発展を約束

本学と三鷹市は、相互の資源および研究成果等の交流を促進することによる活力ある地域社会の創造や人材育成などを目的として、平成25年９月６日、三鷹市役所市長公室において包括的な連携に関する協定を締結しました。
本学は平成28年４月、八王子キャンパスの３学部と２研究科が現在の三鷹キャンパスの近くに井の頭キャンパスとして移転することが決まっています。今回の包括連携協定は、教育、研究、社会貢献の各分野で本学と三鷹市相互の発展を約束するものです。
協定締結式には三鷹市からは、清原慶子市長、河村孝副市長、津端修副市長、髙部明夫三鷹市教育委員会教育長ほか行政・教育関係者が、本学からは松田剛明副理事長、跡見裕学長、ポール・スノードン副学長、古本泰之地域交流推進室長ほか学園関係者がそれぞれ参加しました。
はじめに協定書の内容確認が行われ、清原市長、跡見学長、髙部教育長が協定書に署名をしました。このあと、松田副理事長は三鷹の地でスタートした本学が今回の協定締結により、さらに三鷹市との連携を深め、双方にとってよいかたちで発展してゆきたいと挨拶しました。続いて、跡見学長が、これまでの三鷹市、八王子市、羽村市での地域貢献の実績をふまえ、これから本学がめざす「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」事業を進める決意を述べ、あわせてそれに対する三鷹市の理解と支援を依頼しました。
これに対して、清原市長は、三鷹市をフィールドとして存分に活動を展開してほしい、そのためのパートナーとして臨みたいと話しました。髙部教育長は三鷹市で進めている小中一貫教育にふれ、教育の現場でも本学との連携に期待する旨を伝えました。

協定締結式の様子

締結式で挨拶する跡見学長（中央）

署名した協定書を手にする本学、三鷹市代表者

保健学部　看護学科　看護学専攻　母子看護学　幼児の性教育グループ
（地域交流活動支援事業）

保護者が幼児に性教育を行うための支援

指導教員名　土屋 有利子
学生代表者　金子 千紘（看護学科）

活動事業

［概　要］

- 平成25年８月29日～平成26年３月７日、三鷹市近郊の11カ所の保育園と１カ所の児童養護施設、１カ所の幼稚園において、４～５歳児とその保護者を対象に、「いのちのおはなし会」を実施した。実施した12カ所のこどもの人数は303名、保護者は97人であった。
- いのちのはじまり（受精）から胎児の発育～出産までの様子を胎児人形と学生の寸劇で説明した。身体を守ることについては、パネルで男女の子どもの身体を示し、違いを確認したうえでプライベートソーンを自分で守ることを説明した。最後に子どもひとりひとりに胎児人形を抱っこしてもらい、胎児の大きさや重さを実感してもらった。
- 会終了後、保護者には、会の概要を記した資料と小冊子「いのちやからだのこと　どうこたえる？」を配布した。

［ねらい］

- 命はかけがえのない大切なものであることを知る。
- 自分の身体を知り、守ることができることを目的とする。

［成　果］

- 保護者からは、「幼児にはまだ早いと思っていたが、子どもが真剣に聞いている姿をみて、きちんと子どもに向き合って接しようと思った」、「子どもにわかりやすく使いやすい言葉を用いていたのがよかった。家庭でも子どもとごまかさないで話ができると思う」、「各家庭でどのように子どもに対応しているのかお互いに知る機会となり、参考になった」という意見があった。
- 学生からは、「早すぎる性教育は悪影響があると思っていた。しかし、実際に子どもたちと接したり、保護者の意見を聞いているうちに、この時期に性教育を行う必要性がよくわかった」、「子どもたちの興味津々な顔や楽しそうな表情をみることができて、こちらも楽しかった」、「自分自身の性のことや性教育への認識も変化したと思う」、「活動を通して、何か自分が成長できたのではないかと感じている」との感想が聞かれた。

寸劇やパネルを用いた説明で、性教育を楽しくわかりやすく

学生たちにとってもよい成長の機会に

その他の健康分野での地域交流活動

平成25年度実績

NO.	行　事　名	実施期間	活　動　主　体
1	羽村市平日夜間急患センターへの医師派遣	通年	医 学 部
2	中学校健康診断補助（荒川区立原、足立区立第九、八王子市立石川、ひよどり山、武蔵野市立第四等）	４月	保健学部
3	高等学校健康診断補助（都立国分寺、都立世田谷泉等）	４月	保健学部
4	第13回脳卒中市民公開講座	５月	医学部付属病院
5	羽村市「骨粗しょう症フォロー事業」講演会講師派遣	５月	保健学部
6	「学生天国」にてHIV/AIDSに関する啓蒙活動	５月	八王子キャンパス
7	羽村市「健康とサイクリング」講演会講師派遣	６月	保健学部
8	三鷹市難病健診補助	６月	保健学部
9	平成25年度三鷹市中高年者の運動相談事業「メディカルチェックと運動処方」	８月	医学部、保健学部
10	三鷹市老人クラブ連合会講演会	９月	医学部付属病院
11	第68回国民体育大会（スポーツ祭東京2013・東京多摩国体）応援サポーター	９月・10月	外国語学部・保健学部
12	第12回健康長寿講演会	２月	医学部付属病院
13	国立市市民公開講座	２月	医 学 部
14	チェアスキー初心者講習会サポート	２月	保健学部
15	杏林大学医学部付属病院と三鷹市老人クラブ連合会との合同行事	９月・３月	医学部付属病院

三鷹市老人クラブ連合会講演会

「学生天国」HIV/AIDSに関する啓蒙活動

保健学部　小児発達障害系理学療法研究室
（地域交流活動支援事業）

肢体不自由児の スポーツ参加の支援

指導教員名　芝原 美由紀
学生代表者　仁藤 健太（理学療法学科）

活動事業

［概　要］

- 小学生から高校生まで20名ほどの肢体不自由児が在籍している、横浜市車椅子陸上サークル「ラストラーダ」での活動支援を実施。15回の練習に参加した。
- 車椅子バスケット事業など、障害児(者)のスポーツ活動を紹介。切断者の陸上競技や障害者野球の活動へ学生が自主的に参加した。

［ねらい］

- 車椅子陸上など障害児(者)スポーツを知る。
- 肢体不自由児が安全にスポーツするため、コンディション管理と見守り支援を行う。
- 運動障害があってもスポーツ活動で身体を動かす楽しさや、頑張る様子を身近で見守る。
- 一緒に車椅子に乗車し参加することで、子ども達と関わり交流する。

［成　果］

- 重度な運動障害を持つ子どもが、他の子どもたちより遅れながらも諦めないでゴールを目指す姿、それを応援し見守る他の子ども達の様子を、学生は見守り支援した。
- 肢体不自由児のスポーツ活動について知り、どのような取り組みが必要か、課題を学ぶことができた。

実際に車いすに乗り、子どもたちと交流

その他の教育分野での地域交流活動

平成25年度実績

NO.	行　事　名	実施期間	活動主体
1	三鷹市両親学級	依頼日（月２回）	医学部付属病院
2	三鷹市４ヶ月乳児健康診査	依頼日（２ヶ月に１回）	医学部付属病院
3	杏っ子ひろば	毎月第１土曜日	医学部付属病院
4	羽村市養護教育等スクールインターンシップ	４月～１月	保健学部
5	英語教育スクールインターンシップ	４月～１月	外国語学部
6	脳卒中市民セミナー	５月	医学部付属病院
7	民生児童委員　勉強会	６月	医学部付属病院
8	羽村市立第一、第二、第三中学校にて AED等救命救急講習会	６月	保健学部
9	僻地診療所での見学実習	７月	医 学 部
10	がん看護研修会	7月～2月　不定期開催	医学部付属病院
11	加住地区住民協議会サタデースクールへ 学生ボランティア講師派遣	７月･８月	保健学部
12	クリティカルケア公開講座	８月	医学部付属病院
13	夏！体験ボランティア2013inみたか	８月	医学部付属病院
14	第３回大学コンソーシアムFD・SDフォーラム	８月	外国語学部
15	八王子国際協会日本語ボランティアステップアップ講座 ①第２回　会話場面と機能１ ②第３回　会話場面と機能２	10月･11月	外国語学部
16	包括支援センター主催による地域住民への広報活動	10月	医学部付属病院
17	厚生労働省　難病支援専門員研修	10月	医学部付属病院
18	肝臓病の医療相談会	11月	医学部付属病院
19	八王子市立第三中学校学生の大学施設見学受け入れ	11月	八王子キャンパス
20	留学生日本語弁論大会	12月	外国語学部
21	学生に対するMSW業務の紹介	１月	医学部付属病院
22	マタニティフェスタ（三鷹助産師会からの依頼・協力）	３月	医学部付属病院
23	認知症サポーターフォローアップ講座	３月	医学部付属病院
24	八王子市立ひよどり山中学校学生の職場体験実施	３月	八王子キャンパス

FD・SD講演会

ひよどり山中学生キャンパス受け入れ

外国語学部　野口洋平研究室
（地域交流活動支援事業）

西東京地域の観光地における グローバル対応

指導教員名　野口 洋平
学生代表者　新飯田 ついり（観光交流文化学科）

活動事業

［概　要］

- 汐留、蒲田・羽田空港、神保町３エリアで「観光地におけるグローバル対応」についてフィールドワークを行い、西東京エリア、特に八王子をはじめとした大学周辺地域への応用について検討した。

［ねらい］

- フィールドワークを通じて、グローバル化への対応に関する知見を得る。
- 大学周辺地域の国際化へのヒントを探る。

［成　果］

●汐留エリア

東京の中心部である汐留エリアにて、大学周辺地域の国際化へのヒントがあるのではないかと仮説を立て、外国人の関心を寄せる観光地と考えられる、浜離宮恩賜庭園、イタリア公園、増上寺、東京タワーの4箇所を訪れた。国際化を進めるためには、新しく何かを作るより昔から多くの人に愛されてきた高尾山を活用するのがいいのではないかと感じた。

●蒲田・羽田空港エリア

「グルメの認知度」、「駅や空港とショップ・飲食店の関連性」という２点の国際化へのヒントを得た。八王子駅に江戸小路のような八王子市の特産品を販売したり、八王子の歴史や文化に触れることのできる施設の設置が必要であると考えた。また、“英語・中国語などのパンフレットやマップの配布”“看板・案内板の英語表記”“インフォメーションセンターやお土産屋に外国人対応ができる人材”などの対応を行っていくことが八王子市など西東京エリアの観光地の国際化において重要であると考えた。

●神保町エリア

古本街、東大の赤門や教会といった名所・旧跡を巡った神保町エリアでのフィールドワークからは、今あるものを観光などの資源として生かしていくというヒントを得た。現在一般市民も利用している施設を大いに活用してウォーキングコースなどを考案し、外国の方に訪れてもらい情報を収集することが良いのではないかと考えた。

蒲田・羽田空港エリアのフィールドワークでは、大田市場も訪問

汐留エリアでのフィールドワーク。浜離宮恩賜庭園にて

蒲田駅前にて。フィールド ワーク中の学生たち

総合政策学部　北島ゼミナール
（地域交流活動支援事業）

エイズ・ピア・エデュケーションを 活性化させる為に

指導教員名　北島 勉
学生代表者　毛塚 朋喜・鈴木 悠大・横田 拓馬（総合政策学科）

活動事業

［概　要］

- 2013年時点で、東京都内で行われていたエイズ・ピア・エデュケーション活動の現状、活動を実施するにあたっての工夫や課題について調査した。
- 都内の５つの保健所とエイズ関連の事業を行っている団体を訪問し、担当者から話を聞いた。

屋外ブースでの活動の様子

［ねらい］

- 八王子市内で行っているエイズ・ピア・エデュケーション活動を活性化するためのヒントを得る。

［成　果］

- 東京都内の主に保健所をベースとして行われているエイズ・ピア・エデュケーション活動の現状を知ることができた。
- 八王子市内のエイズ・ピア・エデュケーションにより多くの大学生が参加しやすくするために、大学と八王子市保健所の協力のもと、エイズ・ピア・エデュケーション活動に関する講義及び実習を設置することを、大学コンソーシアム八王子で提案した。

第５回大学コンソーシアム八王子での発表風景

外国語学部　遠山菊夫ゼミナール
（地域交流活動支援事業）

異文化の集い「話しをしよう！世界中の人々と」～シャーロックホームズの冒険～

指導教員名　遠山 菊夫
学生代表者　遠藤 洋介（英語学科）

活動事業

［概　要］

●昨年度に引き続き異文化の集いの企画・運営に注力。地元企業から無償で会場を提供いただき、八王子という地域社会の「真の国際化」を目標に、ゼミ生が担い手となり６回のイベントを開催した。

●海外出身のゲストスピーカーをお招きしての講演会を、４月27日（スリランカ）、５月26日（海外から見た日本）、７月20日（韓国）、９月19日（パキスタン）、12月１日（コートジボワール）、３月８日（香港・マカオ）に実施した。

［ねらい］

●小さなイベントでも何度も開催を重ねることで八王子の真の国際化を学生の立場で地道に図る。

●地域貢献活動に取り組むことを通じて実社会に通用する英語力を磨き、グローバルコミュニケーション論の実践的研究を深める。

［成　果］

●多くの市民の方々や学生と八王子在住の海外出身者の方々との接点を提供することで、友好的な交流を行う良い機会を作ることができた。

●ゲストスピーカーと英語で交渉を行うことで聴く・話す英語力が向上し、英語の資料から情報を収集・分析することで読む・書くの英語力を身につけることができた。

●ゼミ生ひとり一人の個性を活かした「多様性を強みとするティームづくり」を形にすることができた。

スリランカ講演の様子

日韓関係に関するイベントでも学生が司会役を務めた

コートジボワールの回では、学生がコートジボワールの部族に扮して会を盛り上げた

総合政策学部　藤原、三浦、斉藤ゼミナール合同
（地域交流活動支援事業）

Mitaka Kichijoji Project

指導教員名　藤原 究、三浦 秀之、斉藤 崇
学生代表者　幸田 憲昭（総合政策学科）

活動事業

［概　要］

●**清掃活動**

昨年に引き続き、三鷹駅、吉祥寺駅周辺の清掃活動を月一回のペースで実施した。

・実施日時（各回１時間30分の活動）

〈三鷹駅周辺〉		〈吉祥寺駅周辺〉	
４月21日	16：00～	５月26日	９：30～
６月16日	16：00～	７月７日	16：00～
10月６日	９：30～	９月22日	16：00～
11月24日	16：00～	12月22日	９：30～

●**野菜の栽培**

八王子市のひよどり市民農園を借りて野菜の栽培を行った。

●**WEBサイトの立ち上げ**

団体のインターネットドメインを取得し、WEBサイトも立ち上げることができた。
（http://mitaka-kichijoji.org/）

［ねらい］

●地域住民の生活環境向上に貢献する。

●今後の地域交流活動に活かすべく、アイデアを検討する。

［成　果］

●地域住民の方との触れ合いの中で、美化活動や交流活動の有用性等について認識を新たにすることができた。

●団体のロゴマーク入りのビブスが完成し、より地域にアピールできる活動母体となることができると考えている。

ひよどり市民農園にて野菜の栽培を体験

沿道のゴミを拾い、地域の美化に貢献

清掃活動に参加した学生たち

秋田県湯沢市
秋の宮温泉郷との連携協定に基づく活動

まちづくり・観光事業への参画

平成24年１月より地域交流委員会と秋田県湯沢市「秋の宮温泉郷イメージアップ推進協議会」間で『まちづくり・観光事業に関する連携協定』が締結されています。きっかけは同地に外国語学部の教員が観光まちづくりの講師として招かれ交流が深まったことであり、この協定に伴いまちづくりや観光事業に関して、高齢化問題や観光資源の発掘・発信等を課題として双方の協力により研究や交流活動を行っています。

平成25年８月には、昨年度から開始した「夏休み学生交流事業」として、「センス・オブ・ワンダープログラムin湯沢」を実施しました。本学外国語学部観光交流文化学科の学生４名は、雄勝大花火大会の運営サポートや七夕絵どうろうまつりの視察、秋の宮温泉郷での農作業体験やピザ作り、そしてゆざわジオパークの視察を行いました。これらの活動においては、秋田県立雄勝高等学校の生徒との交流や、湯沢市ジオパーク推進協議会の皆様との観光まちづくりに関する意見交換なども同時に行いました。

平成26年２月には、継続して行われている「かだる雪まつり」へ外国語学部観光交流文化学科の学生10名が参加しました。「かだる」とは秋田の方言で「参加する」という意味で、「秋の宮温泉郷イメージアップ推進協議会」などでつくる実行委員会が雪まつりを主催しています。杏林大学からの参加は今回で６回目です。幻想的な景色をつくりだす約3400個のミニかまくらづくりは、学生と雄勝高校の生徒、県内外の家族連れの一般参加者などが一団となって行いました。その他、総合案内所の運営や、餅つきの運営補助など、まつり全体の実施運営に参画致しました。

このような地域交流活動によって、地域においては地元価値の再評価が進むとともに、学生にとっては、地域が抱える課題の認識、その課題解決策を検討する過程を通した問題発見・解決力の醸成を行うことができました。

今後も連携を進め、互いに高めあう関係を続けていきたいと考えています。

湯沢市絵どうろう祭りを練り歩き

ゆざわジオパーク視察

雄勝高等学校生と一緒に農作業体験

かだる雪まつりミニかまくら

その他の地域活性化分野での地域交流活動

平成25年度実績

NO.	行　事　名	実施期間	活動主体
1	図書館一般開放	通年	三鷹・八王子キャンパス
2	日野市の子育て支援関連行事参加	通年	保健学部
3	大学コンソーシアム八王子 フェアトレードカフェMARCHE運営補助	通年	八王子キャンパス
4	滝山城跡桜まつり　課外活動の発表（ダンス部）	４月	八王子キャンパス
5	大学コンソーシアム学生委員として参加	４月	八王子キャンパス
6	“歩いて実感”三浦半島プロジェクト ―Yokosuka海道ウォーク―	５月	外国語学部
7	八王子市災害時支援	５月～７月	保健学部
8	羽村市環境フェスティバル参加	６月	外国語学部
9	八王子宮下町民交流杏ジャムづくり	６月	八王子キャンパス
10	観光関連事業インターンシップ （羽村動物公園・はむら夏まつり）	７月・８月	外国語学部
11	吉祥寺ホーム夏祭り補助	８月	保健学部
12	八王子まつり　山車の曳き子	８月	外国語学部
13	多摩地区中学野球大会運営補助	８月	八王子キャンパス
14	若宮神社例大祭　神輿渡行の補助	９月	八王子キャンパス
15	八王子市消防署ファイヤーフェスティバル運営補助	11月	八王子キャンパス
16	第２回　北多摩南部医療圏　高次脳機能障害地域支援研修会	12月	医学部付属病院
17	日野冬フェスタ2013　イルミネーション出展	12月	八王子キャンパス
18	大学コンソーシアム八王子研究発表会への参加	12月	八王子キャンパス
19	いなぎICカレッジ　プロフェッサー講座 「言葉の違いと人名・地名の変遷 ―後編―」	１月・３月	八王子キャンパス
20	母子自立指導員研修	１月	医学部付属病院
21	病院における潜在的・顕在的DV被害女性の看護実践 能力向上プログラムの講演会	２月	医学部付属病院
22	東京マラソン　運営補助	２月	保健学部
23	小中学生へむけたAED応急処置及び心肺蘇生法の実技講習会	３月	保健学部
24	羽村市「花と水のまつり」における通訳、案内業務	３月	外国語学部

八王子まつり山車

三浦半島プロジェクト

いなぎICカレッジ

杏林大学

杏林大学CCRC研究所

〒181-8525 東京都三鷹市下連雀3-38-4
三鷹産業プラザ309
Tel：0422-29-9576　Fax：0422-29-9586
Mail：ccrcoffice@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林大学　地域交流課

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476
Tel：042-691-8725　Fax：042-691-3809
http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/society/
Mail：area@ks.kyorin-u.ac.jp